

鉄板英雄伝説

2007(平成19)年5月28日鑑賞〈東映試写室〉

★★★



監督・脚本・製作総指揮＝ジェイソン・フリードバーグ、アーロン・セルツァー／出演＝カル・ベン／アダム・キャンベル／フォーネ・チャンバース／ジャイマ・メイズ／ジェニファー・クーリッジ／ダレル・ハモンド／クリスピン・グローヴァー／エクトル・ヒメネス／レッド・ウィラード (20世紀フォックス映画配給／2007年アメリカ映画／92分)

……北京郊外の石景山遊楽園のパクリ問題は、全世界に著作権の重要性を印象づけたはず。ところが、そんなご時世に、『ナルニア国物語』(05年)をメインとし、さまざまなハリウッド大作をパクったパロディ映画が堂々と登場！ こんな映画には理屈は無用！ 誰の何をパクリなのか、その軽妙なオチに爆笑……？ それとも思わず苦笑……？ でもそれができるのは、ホンモノを知っているあなたの感性が豊かなおかげ……。

なぜパロディ映画に……？

私は基本的に、名作映画を皮肉ったパロディ映画の類は大キライ。したがって、この『鉄板英雄伝説』というタイトルを見て、そのチラシを読み、「全米オープニング第1位の爆笑パロディ映画！」という謳い文句を読んでも、こんなアホな映画は絶対観に行かないぞと思ったもの。ところが、たまたま他の予定が少なく日程的に余裕があったため、「それでは……」というつもりで観たパロディ映画がこれ……。

パクリもここまでいけば……

近時の大きな話題は、著作権や知的所有権をトコトン無視した中国の北京郊外にある石景山遊楽園。すなわちディズニーのキャラクターや日本が世界に誇るべきドラえもんキャラクターが少しだけ(?)姿を変えて堂々とのさばっている姿に、全世界が唖然としたもの……。したがって、著作権や知的所有権の重要性は今や全世界に広がっているはずだが、この『鉄板英雄伝説』がこの著作権や知的所有権の問題を巧妙

にかいくぐりながら、全米週末興行成績第1位となるパロディ映画をつくりあげたのは立派なもの。しかして、この映画を監督・脚本・製作総指揮したジェイソン・フリードバーグとアロン・セルツァーがパクった作品は……？

ジャック船長とウィリーは偉大なキャラ

私は5月26日に『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズの第3作である『パイレーツ・オブ・カリビアン ワールド・エンド』(07年)を観たが、ハリウッド映画の大ヒット作となったこのシリーズが、パロディ版から目をつけられたのは当然。

このシリーズで、ブラックパール号の船長ジャック・スパロウを演じたジョニー・デップは、今や世界的名優としてその名をとどろかせているが、彼がこのシリーズとは別に大ヒットさせたのが、『チャーリーとチョコレート工場』(05年)のウィリー・ウォンカ役。子供たちの夢を一手に引き受けると共に、「金のチケット」で子供たちの夢を誘い、どこか怪しげな顔をもったウォンカ社の代表者ウィリー・ウォンカ役を世界最高の演技派俳優ジョニー・デップが熱演した作品だから、それがパロディ版で取り上げられたのは当然であり、かつ大きな名誉……？

メインストーリーは『ナルニア国物語』

他方、このパロディ映画のメインストーリーとして設定したのは、あのファンタジー大作『ナルニア国物語 第1章ライオンと魔女』(05年)。ホンモノが『ナルニア国物語』だったのに対して、パロディ版『ナルニア国物語』は、ナルニア国にGを加えたグナルニア国としているのがミソ……？

他にも目をつけたのは『ダ・ヴィンチ・コード』(06年)、『スーパーマン』(78年)、『X-MEN』(00年)、『ナチョ・リブレ 覆面の神様』(06年)などの名作だが、これらの登場人物のキャラをうまくパクりながら形づくったメインストーリーは、それなりに筋の通った立派なもの。しかしまあ、よくぞここまでうまく名作からつまみ食いをしてパクったものと感心……？ そして同時に感じたのは、パロディ映画に目をつけられることは、それだけで名誉なことと思わなければ、ということ……。

ホンモノを観ていなければ……？

パロディ映画をパロディとして腹の底から笑えるのは、ホンモノを観ていることが

大前提！ だってホンモノを観ていなければ、何のために、誰のどこをパクっているのかがわからないから、面白みは半減するはず……。チラシによると、このパロディ映画は2007年1月興行収入で全米オープニング第1位を獲得したとのことだが、それはこれらのホンモノを観ていた多くのアメリカ人がそのパロディ版にも興味を示したせい。

日本では『パイレーツ・オブ・カリビアン』『チャーリーとチョコレート工場』『ナルニア国物語』は観客層がほぼ共通、また『スーパーマン』『X-MEN』もほぼ共通だが、『ダ・ヴィンチ・コード』はちょっと観客層が違う感じ。また『ナチョ・リブレ 覆面の神様』は日本では単館上映だったから、私を含めて、観ている人は少ないのでは……。？ もっとも、メインストーリーはあくまで『ナルニア国物語』だから、『ナルニア国物語』を観ていれば、あとは、ちょっとした耳学問やチラシなどによる目からの情報だけでオーケー……。？

4人兄弟 vs. 4人の孤児

『ナルニア国物語』の主人公は、母親に別れを告げた4人の兄弟姉妹。すなわち、長男ピーター、次男エドモンド、長女スーザン、次女ルーシーだった。しかし「グナルニア国」の物語に登場するのは、それぞれ自分の故郷を探し求めている4人の孤児たち。そして、何の縁も所縁もない孤児たちを結びつけたのは、4人がそれぞれ偶然に拾ったウィリーのチョコレート工場への金のチケットによるもの。

最初に『ダ・ヴィンチ・コード』の緊張感溢れるシーンの中、ルーヴル美術館の中から危機一髪脱出してきたのがルーシー（ジャイマ・メイズ）。次に『スネーク・フライト』（06年）と全く同じように飛行機がスネークたちに襲われる中、機内から突き落とされたのがスーザン（フォーネ・チャンバース）。また、『X-MEN』で有名になったミュータントたちに痛めつけられた、背中にニワトリの小さな羽しかもたないナヨナヨした男がピーター（アダム・キャンベル）。そして、『ナルニア国物語』のエドモンドのキャラをパクっているのがエドワード（カル・ペン）で、彼はメキシコの“リブレ”・レスリングで痛めつけられた後、他の3人と共にこの映画の主演として登場。この4人の孤児たちがウィリーのチョコレート工場から命からがら脱出したとたんに入り込んだのが、グナルニア国というわけだ。その後は、スクリーン上で、そのおバカぶりをタップリと味わってもらいたいもの……。

半人半獣は予算オーバー……？

『ナルニア国物語』のファンタジー色を強めたのは、動物に人間の言葉をしゃべらせたり、半分人間、半分動物の姿をしたキャラクターを多数登場させたこと。洋服ダンスを開けるとそこは雪に覆われたナルニア国だったという導入部も面白かったが、そこでくり広げられる世界は、そんなキャラの大量出現によってがぜん面白みを……。

ところが、そのパロディ版であるこの映画では、ライオンの姿をしたアスランは登場せず、アスロ役の俳優は「毎日、僕は髪を油で固められ、スカルクヤップを頭にかぶせられ、ライオン・ウィッグをつけられ、ライオン・パンツとライオン・シューズを無理矢理はかされ、胸毛を剃られ、作り物のライオンの胸毛を糊でくっつけられたんだ」と説明している。

さらに、『ナルニア国物語』後半のハイライトとなった大スペクタクル戦闘シーンもバクリで、『もしも昨日が選べたら』（06年）で有名になった（？）、停止、巻き戻し、早送りを自由に設定できる魔法のタイマーを作動させることによって、白いアバズレ女の兵士たちを一時停止状態にさせたから、4人はやりたい放題が可能に……。しかして、この映画はなぜそんな手法を……？ それは予算削減のため……？ つまり、当たるか当たらないかが公開するまで全く予測がつかないパロディ映画では、経費節減が第1……？

邦題は？ 原題は？

この映画の邦題『鉄板英雄伝説』は、それだけでは一体何の映画かサッパリわからないもの。しかし、有名な映画のキャラクターたちが、どこかちょっと違うなという感じでたくさん写っているチラシを見れば、多少はイメージが湧いてくるはず……？

他方、この映画の原題は『EPIC MOVIE』だが、これもそれだけではサッパリわからないはず。「エピック」とは、私が映画検定受験のために勉強した『映画検定 公式テキストブック』によれば、「過去の歴史に取材して、実在した人物だけでなく架空の人物達の“現実を誇張した”冒険、活躍を描く」もの（194頁参照）。しかして、この映画後半の白いアバズレ女との戦いの場面になると、やっとその意味がわかってくるはず。さて、こんなハリウッド大作をパクった「エピックもの」は、日本で大ヒットするのだろうか……？

2007(平成19)年5月29日記